

近年林業界にも増えてきているICTの重要性を知ることができました。

ICTは、若手のオペレーターでもシステムの扱い方を習得することで、熟練者と同様な採材を行うことができる点にICTの重要性を知ることができました。



ムであり、木材市場での取引価格を事前に入力することで一本あたりの木材価格が最大になるように採材プランを自動で算出するものになります。

今回の視察では、このハーベスタを実際に見せていただきました。

このハーベスタの特徴としては、伐採後のファーストカット時に、あらかじめ入力した価格表と材の直径、長さを照合し、理想的な採材プランを立ててくれます。直径・長さ・材積も測ることが可能です。採材プランは内蔵されているコンピュータが判断してくれるため、オペレーターは木材の腐りや曲がりやを判断するだけで採材することができます。また、玉切りする長さはオペレーターの判断で変えることもできます。さらに、掴み圧を樹種ごとに変えることができ、スギは優しく掴むといった設定をすることが可能です。他にも、カラーマーキング機能によって、直材には赤色、曲がり材には青色、パルプ材には色をつけないなど視覚的に区分することが可能であるため、仕分け作業の効率化にも活用できます。このような様々な機能を持つICTハーベスタは、若手のオペレーターでもシステムの扱い方を習得することで、熟練者と同様な採材を行うことができる点にICTの重要性を知ることができました。

ICTを活用した技術を学ぶことで、新たな視点を持ち、将来に役立てていただけたらと思います。

今回研修にご協力いただいた銘建工業株式会社、真庭バイオマス発電株式会社、有限会社杉産業、日立建機日本株式会社の皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

追記、現地視察の翌週から、実際に、ICTハーベスタを操作する実習も行いました。研修生達は、普段乗るハーベスタと異なる操作性に、戸惑う場面もありましたが、現場視察で活用方法はイメージできていたので、システムが理想的な採材プランを示してくれることが採材時間やオペレーターの負担軽減にとっても有益であると改めて実感していました。

### 日々の”活動報告”やっています！

林業大学のHP・各種SNSでは、今回紹介させていただいたような講義や実習についての活動報告を紹介しています。興味がある方は是非ご覧下さい。(下記QRコードより閲覧できます)



HP



Instagram



Facebook



Twitter

# 林大の風

第32号 高知県立林業大学校



## 新年のご挨拶

林業大学校副校長

金子 尚公

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は本校の講義や現地実習、インターンシップ等につきまして特段のご理解、ご協力を賜りましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

異動で本校に就任してから早2年が経とうとしています。日々成長していく研修生の姿を目の当たりにし、頼もしさを感じています。

また、昨年は専攻課程と短期課程の合同で初めてアーボリストの講習会を実施し、新たな技術の習得とともに、研修生と一般の受講生との交流もできました。このような機会のある場である短期課程につきまして、興味のある方は是非参加していただきたいと思っております。

最後になりますが、新しい年が皆様にとつて実りの多い年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 岡山研修

専攻課程では、12月7日・8日の二日間で岡山県での視察研修を行いました。

1日目は、銘建工業株式会社にて、中島社長に林業の現状とCLTの可能性について講義をしていただきました。その後、本社事務所・CLT工場と真庭バイオマス発電株式会社を見学させていただきました。

本社事務所については、CLTパネルによる断熱気密性能と外気調和機による空調管理により、快適な気温を維持することができエネルギー使用量も通常より大幅に削減できるとのことでした。研修生は事務所内の暖かさや内装のオシャレさに驚いた様子で説明を受けていました。

CLT工場では、最大サイズ3×12mのCLTパネルを製造する量産工場の生産ラインを視察させていただきました。説明の中では、断熱性・耐火性・



耐震性についても十分な性能を持ち、建築物を建てる際も寸法の変化が少ないというメリットを教えてくださいました。次に見学した真庭バイオマス発電株式会社では、ある程度乾燥させたバーク(木の皮)・チップ・カンナ屑(CLT工場にて発生した物を含む)・ペレットなどを利用したバイオマス発電を行い、真庭市内に電力供給を行うとともに、CLT工場内の電気としても活用しているということでした。このような地域で取り組む発電所は、森の資源を余すことなく使用でき、非常に有益であると感じました。

2日目は、森林管理コースと林業技術コース合同で林業機械へのICTの活用を学ぶため、岡山県新見市にある有限会社杉産業の現場へ視察に行きました。有限会社杉産業では、Iloggerバリューバッキングシステムが搭載されたハーベスタを導入しています。このシステムは、林業先進国フィンランドの「ワラタ社」製のシステ